

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652020

研究課題名(和文) 絵巻学の創成に向けた理論的基盤の構築

研究課題名(英文) Establishing the Theoretical Basis of the Emaki Studies

研究代表者

高岸 輝 (Takagishi, Akira)

東京大学・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：80416263

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：分野横断的に絵巻を把握する「絵巻学」の創成を目指し、研究対象を古代から近世にまで広げ、パトロンとの関与、転写のメカニズム、絵師による古典学習と画風展開、同時代の古記録に見る鑑賞や蒐集の状況を考察した。こうした美術史的考察に加え、歴史学・文学・宗教史・民俗学における蓄積も参照しつつ、国内外に所蔵される作品の位置づけを明らかにし、国際的に成果を発信した。

研究成果の概要(英文)：Aiming to establish a study of illustrated handscrolls (emaki-gaku) that crosses various disciplines while expanding the field of study to encompass ancient to early modern art, I have considered the role of patrons, mechanisms of copying, painters' study of the past and the development of artistic styles, and the conditions of appreciation and collection as seen in contemporary documents. In addition to these perspectives from art history, I have also made reference to the fruits of scholarship from history, literature, religious studies, and folklore studies. I have clarified the place of illustrated handscrolls in collections in Japan and abroad, presenting the results of this international research in various venues.

研究分野：日本美術史

キーワード：絵巻学 日本美術史 日本絵画史

1. 研究開始当初の背景

美術史をベースとする絵巻の研究は、近代以降すでに百年以上の蓄積があり、第二次大戦前の美術研究所（現在の東京文化財研究所）では、当時の矢代幸雄所長の発案にかかる『絵巻物総覧』のプロジェクトが立ち上げられ、総合的な調査と解題が試みられた。戦後には絵巻を扱った大規模な全集の出版が相次ぐ。1960年代の『日本絵巻物全集』（角川書店）、1970年代から90年代における『日本絵巻大成』（正・続・続々、中央公論社）シリーズの刊行によって、画面へのアクセスは飛躍的に改善され、諸分野からの研究への参入を促進した。1995年には、終戦で頓挫していた『絵巻物総覧』（角川書店）が刊行され、国宝・重要文化財に指定されている中世の名品については、美術史における基礎的情報が出揃った。21世紀に入り、『大絵巻展』（京都国立博物館、2006年）をなど、大規模な絵巻の展覧会もしばしば開催され、修理完成に伴う「一遍聖絵」の全巻展示が行われるなど、研究と鑑賞の両面において絵巻は強い関心を集め続けている。

申請者は、2000年前後から絵巻研究を開始し、室町時代の土佐派作品を複数取り扱った高岸輝『室町王権と絵画』（京都大学学術出版会、2004年）さらに絵巻に特化して論じた同『室町絵巻の魔力』（吉川弘文館、2008年）がある。従来は平安末期・鎌倉時代を絵巻のピークとする見方が根強かったが、これらの書籍では、足利將軍家を中心とする絵巻のパトロンたちの関与、版本も含めた転写のメカニズム、土佐派絵師による古典学習と画風の継承関係、同時代の古記録に見る鑑賞や蒐集の状況、といった側面に考察を拡大することで、室町社会における絵巻の制作と享受の実態を理解し、中世絵巻の再評価を試みた。

2. 研究の目的

これまでの絵巻研究は、美術史においては古代・中世美術史に基づく実証的なアプローチが主軸であった。その一方で、歴史学・文学・宗教史・民俗学からの蓄積もあり、近年では絵画史料論も進展しつつある。本研究は、諸分野における動向や方法論を参照しつつ、対象となる作品の年代を古代から近世にまで広げ、美術史の枠を超えて総合的に絵巻を把握するための議論の基盤を整えることを目的とした。また、海外所蔵作品の調査研究や、国際的な成果の発信も重要である。

3. 研究の方法

分析対象とする絵巻の時代的広がりや階層的広がりを視野に入れ、古代から近世にい

たる作品の中から、天皇や将軍が関与した最上層の作例から、お伽草子や近世の転写本まで考察の対象とし、作品調査を進めた。近世の作例については海外に所蔵されるものも多いため、これらについても個別に論考を発表した。同時に、海外の絵巻研究者との共同研究、シンポジウム開催および研究ネットワークの構築を目指した。作品研究にあたっては、諸分野における最新の成果を取り込み、方法論の違いに留意しつつ議論を展開した。

4. 研究成果

次項に掲載した研究成果は、(1) 個別の作品研究、(2) 絵巻における転写や画派の様式、パトロンや関与についての俯瞰的論考、(3) これらを総合した「絵巻学」創成に向けた国際的発信、の三つからなる。

(1) に関しては、鎌倉時代のメトロポリタン本「北野天神縁起絵巻」、室町後期の土佐光信周辺で描かれた「地藏堂草紙絵巻」および『古今和歌集』見返し絵、室町から江戸時代にかけての絵巻転写の系譜を扱った「酒飯論絵巻」「日蓮聖人註画譜」の研究があり、中世絵巻から近世絵巻への展開を個別作例に即して跡付けた。

(2) に関しては、中世絵巻および十六世紀の絵巻における様式展開、室町時代土佐派の変遷の総括、絵巻における実景表現の水墨画との比較、合戦絵巻の受容、「融通念仏縁起絵巻」の転写、などの論考がある。

(3) については、英語による論考および口頭発表の多くがこれに該当する。特にブラジル・サンパウロと韓国・ソウルにおける口頭発表は、両国の学会において、日本における絵巻研究の現状を報告するとともに、本研究課題の成果をまとめ、「絵巻学」創成への見通しを国際的に発信したものである。

以上、(1)(2)(3)の研究発表を通じて、絵巻の研究対象を拡大、総合的に把握した上で、国際的に発信するという当初の目的を達成することができた。今後、絵巻の精細な図版を伴う研究書の刊行を計画しており、今回の研究成果を国民や研究者に広く還元することを目指す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

高岸輝、十六世紀やまと絵様式の転換、文学、査読有、13巻5号、2012年、144~152頁

高岸輝、土佐光信と室町絵巻、文化交流研究、査読無、26号、2013年、11~18頁

高岸輝、中世後期絵巻の様式展開、美術史論叢、査読無、29号、2013年、51~60頁

高岸輝、小嶋菜温子、高橋亨、世界の源氏物語絵 いまなぜ光があてられたか、アナホリッシュ国文学、査読無、4号、2013年、4~48頁

高岸輝、足利義教と美術 北山と東山をつなぐ、『聚美』、査読無、13号、2014年、38~43頁

高岸輝、伝東常縁筆『古今和歌集』(群馬県立土屋文明記念文学館蔵)の見返し絵について、『群馬県立土屋文明記念文学館紀要「風」』、査読無、18号、2015年、1~4頁

〔学会発表〕(計6件)

高岸輝、中世絵巻の様式展開、美術史学会東支部大会、2012年12月16日、五島美術館

Akira Takagishi, From Painting to Print to Painting: The Yüzünenbutsu engi handscrolls and the Muromachi Shoguns, January 16, 2013, CIHA Colloquium, Otsuka Museum of Art

Akira Takagishi, The Amewakahiko Narrative Handscroll in the Museum of Asian Art, Berlin and the Tosa School of the Muromachi Period, March 8, 2013, International Symposium Moving Art: East Asian Objects and Their Journeys, University of Zurich, Swiss

Akira Takagishi, The Relationship and Collections of Imperial Court and Shogunate in the Muromachi Period, Treasure, Ritual and Repositories in the East and the West, November 24, 2013, University of Zurich, Swiss

Akira Takagishi, Emaki Studies: Past, Present, and Future, ORIENTS: Widening Frontiers, International Meeting of Researchers on Oriental Art, May 22, 2014, Pinacoteca of São Paulo State, Brazil

Akira Takagishi, Emaki Studies in Japanese Art History, 2015 Spring AHAK Conference: Art History in Korea in the Age of Asia. Art History Association of Korea (AHAK), May 9, 2015. Seoul National University, Seoul, Korea

〔図書〕(計12件)

高岸輝ほか、竹林舎、論集・東洋日本美術史と現場 見つめる・守る・伝える、2012年、525頁(合戦絵巻の東北、170~180頁)

高岸輝ほか、サントリー美術館、お伽草子 この国は物語にあふれている、2012年、205頁(土佐光信と「地藏堂草紙絵巻」、154~160

頁)

Akira Takagishi et al., National Institute of Japanese Literature, Japanese Visual Culture: Performance, Media, and Text, 2013, 196p. (Intersections of Engi Scroll Paintings and Buddhist Painting, pp.73-81)

高岸輝ほか、ペリかん社、アメリカに渡った物語絵 絵巻・屏風・絵本、2013年、258頁(メトロポリタン本「北野天神縁起絵巻」の図像と様式、106~116頁)

高岸輝ほか、竹林舎、図像解釈学 権力と他者 仏教美術論集4、2013年、461頁(「酒飯論絵巻」のなかの中世、312~322頁)

高岸輝ほか、ブリュッケ、近世やまと絵再考 日・英・米それぞれの視点から、2013年、366頁(一六世紀やまと絵様式の転換、85~97頁)

Akira Takagishi et al., The Center for the Art of East Asia, University of Chicago, Archaism and Antiquarianism in Korean and Japanese Art, 2013, 240p. (The Collection and Production of Picture Scrolls by the Ashikaga Shoguns, pp. 74-85)

高岸輝ほか、三弥井書店、絵が物語る日本 ニューヨーク スペンサーコレクションを訪ねて、2014年、360頁(「日蓮聖人註画讃」の転写系統とスペンサー本の位置、173~186頁)

高岸輝ほか、岩波書店、『岩波講座 日本歴史』第8巻 中世3、2014年、314頁(室町時代の文化、288~314頁)

高岸輝ほか、小学館、『日本美術全集』第9巻 室町時代 水墨画とやまと絵、2014年、295頁(やまと絵の再生と革新 室町時代土佐派の成立と展開、178~187頁)

高岸輝(共同監修) 美術出版社、『日本美術史(美術出版ライブラリー 歴史編)』、2014年、379頁(室町時代 京都の再生、137~160頁、国際的視野で日本美術史を展望する、325~329頁)

Akira Takagishi et al., IRSA Publishing House, Between East and West: Reproductions in Art, 2014, 436p. (From Painting to Print to Painting: The Yüzünenbutsu Engi Handscrolls and the Muromachi Shoguns, pp.289-300)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高岸 輝 (TAKAGISHI, Akira)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：80416263

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：